

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻 修士課程《社会人》	2026年度 春季
専門科目		

【Ⅰ】

学力検査にあたらぬ問題のため、解答又は解答例、出題の意図はありません。

【Ⅱ】

《解答又は解答例》

ア 風土記

奈良前期の官撰地誌。元明天皇の詔によって諸国から献じられたもので、現存するのは、出雲・播磨・常陸・豊後・肥前の五か国の分で、土地や産物、伝承などを記す。

イ 六歌仙

平安初期を代表する六人の歌人。紀貫之による『古今和歌集』の仮名序で批評されている在原業平・僧正遍昭・喜撰法師・大友黒主・文屋康秀・小野小町を指す。

ウ 曾我物語

南北朝～室町中期頃までに成立した軍記物語。曾我十郎・五郎の兄弟が、苦勞の末に父の敵工藤祐経を討つ話で、謡曲や近世の小説・演劇に大きな影響を与えた。

エ 本居宣長

江戸時代中期の国学者。本格的な実証的研究を深め、国学を大成した。注釈『古事記伝』『源氏物語玉の小櫛』、随筆『玉勝間』、文法書『詞の玉緒』などが名高い。

オ 自然主義

文学で、人間の生態や社会生活を直視して分析し、ありのままの現実を描写することを本旨とする思潮。フランス起こり、日本では明治後期以降、田山花袋、島崎藤村らが自己の内面をあからさまに告白したり、また、平凡な人生を描写したりする作風を展開した。

カ 私小説

作者自身の生活体験を素材としながら、その中に作者の心境や感懐を吐露していく小説。日本独特の小説の一形態で、自然主義や白樺派の系譜を引いて大正期から昭和初期にかけて文壇の主流をなした。

キ 変体仮名

現在の字体と異なるひらがなで近世まで広く行われた。明治33年(1900)小学校令施行規則で採用されたひらがなと比べて、字母やくずし方が異なる。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻 修士課程《社会人》	2026年度 春季
専門科目		

ク 季語

連歌、俳諧、俳句で、四季それぞれの季節感を表わすために、句によみこむ多種多様な語。
『歳時記』によって知られる。

《出題の意図》

日本文学史および日本語学の基本的な知識を問う。

【Ⅲ】

《解答又は解答例》

- 〔A〕 問一 胸がドキドキしてすぐに開けたところ
問二 口に出さずに思っているのは、口に出すのにまさっている
問三 どうして参上なさらないのか？（参上なさるべきだ）
問四 知らない人がいるだろうか？（誰でも知っている）
問五 どうしてこんなふう忘れていたのであろうか？

〔B〕 学力検査にあたらぬ問題のため、解答又は解答例はありません。

《出題の意図》

〔A〕 古文の単語・文法を習得しているか否か、古文を正確に読解できているか否か、を試す問題です。

〔B〕 学力検査にあたらぬ問題のため、出題の意図はありません。